学びを選ぶ 教育2014 3

文化・考え方違い教える

インターナショナルスクール

欧米やアジアの子と少人数で

上アルファベットを学ぶ幼児部の子どもたち
下「ハカ」の練習を始める初等部の子どもたち＝いずれも名古屋市名東区

名古屋市名東区の愛知インターナショナルスクール（AIS）。ログハウス風の校舎の一室に集まった50人ほどの子どもたちは、時に笑いながら、テレビ画面の映像を見つめていた。

大歓声に包まれたラグビー場。ニュージーランドの選手たちが力強いかけ声と共に、両手を太ももに打ちつけ、足で地面を踏み鳴らす。ハカと呼ばれる民族舞踊だ。フランスの選手たちは横一列にがっちりと肩を組み、これを見据える。

「国によって違いがあるよね」。小学校にあたる初等部の校長、マーク・リードさん（36）が英語で語りかける。子どもたちはうなずくと、各学年が交じったグループに分かれ、体育祭で披露する独自のハカを練習し始めた。

毎週金曜の朝にあるアセンブリー（集会）の光景だ。マーク校長は様々な方法で、世界の文化の違いや人々の考え方の違いを教える。写真を見せて職業を想像させる。一見むさ苦しく近寄りがたい人の写真を見せたかと思うと、「これは校長先生の友だち」と言って、外見だけで人を判断しないよう促す。

AISは名古屋市千種区の自動車市場調査会社「フォーイン」のグループ会社が2006年に開校した。年間の学費は幼児部（2～5歳）が約124万円、初等部が約137万円と高額だが、県内各地から幼児部に35人、初等部に53人が通う。8割は日本人だ。欧米やアジアの子らと共に10人程度の少人数クラスで学ぶ。

教師は欧米やアジア出身の12人と日本人5人。全教科を英語で教える。ただ、日本語も使えるバイリンガル教育を掲げ、日本人の子らには日本人スタッフが国語、算数、理科、社会を日本語で教える授業もある。

幼児部と初等部に3人の子を通わせる名古屋市天白区の40代主婦は、米国の大学に留学した際、英語で苦労した経験がある。それだけでなく「日本の教育では、自分の意見をしっかり言う機会が少なかったな、と実感した」という。

「今の日本の教育ではグローバル化した世界への対応は難しいと思った。英語を武器に、将来の選択肢を広げ、自分の意見を述べられる子になってほしい」と願う。

幼児部、初等部を束ねる井上雅紀ヘッドマスター（68）は「多くの親は、答えはいくつもあるという欧米式の教育を受けさせたいと考えている。日本人のアイデンティティーを失わない、真の国際人を育てたい」と話す。

国内では無認可校の扱いだが、教育の内容は、米国の評価団体WASC（米国西部地域私立学校大学協会）の認定を受けている。在学中に進学塾に通う子もおり、卒業後は私立中や中等部のあるインターナショナルスクールなどに進学するという。（嶋田圭一郎）

◇

次回は6月1日です。